

森に入って森の営みを探そう

令和4年度第4回朝日自然塾(※)が、10月2日(日)小国町扇平国有林にて、基督教独立学園の生徒を対象に、置賜森林管理署の協力を得て開催されました。

令和元年度に、この企画は始まりましたが、2年度及び3年度はコロナ禍の中で中止し今年度仕切り直しとなりました。

当日は、天気も良く、生徒の参加は2名のみでしたが、山形大学農学部菊池准教授にも現地で講義をしていただくなど、温かいご支援もいただき森林のについて学ぶ場になりました。



講義風景

始めに、菊池准教授より北海道知床で行っているモニタリング調査について、紙芝居形式での講義を受け森林についての理解を深めました。

講義の次は、国有林の現場を活用して植生について学んだ後に、立木の樹高、太さの測定、「おみとおし」を利用した森林の蓄積把握について実際の作業を行いました。

講義の最後には、置賜地域における熊剥ぎの現状を知って貰うため、熊剥ぎ防止のテープを巻く作業を実際に行い日程を終了しました。

生徒達は、森林について、非常に強い関心を持ち積極的に質問をしていました。

参加した生徒の皆様には、今後も自然に対して強い関心を持っていただけるように願うとともに、今後ともこの取り組みを継続していきます。



「おみとおし」実践中



「熊剥ぎテープ巻き」実践中

(※)朝日自然塾:東北森林管理局と朝日山地森林生態系保護地域の利用と保護管理に深く関わりをもつ各団体が協力し、朝日山地及び周辺地域において体験活動型森林環境教育を推進するため企画実践しています。